

今週の富大生

# Weekly TOMIDASEI

第41号

大学院理工学研究科  
理工学専攻  
メカトロニクスプログラム  
修士1年  
岐阜県立斐太高等学校  
(岐阜県)

地域の課題解決のために、全力で



## 高校で「地域活性プログラム」に注力

斐太高校で2年生の時、地域活性に注力していました。僕が住んでいた飛騨高山には外国人観光客が多く押し寄せます。困る場合は食事です。ヴィーガンやベジタリアン対応のレストランマップを作ることで、地域の困りごとを一つ解決する手助けをしました。今思い返すと、その時から地域の課題を解決するために人に働きかけたり、アクションを起こすことにやりがいを感じていました。

## 当初の予定とは違う進路

進路選択時は工業系に進みたいと考えていました。その中でも、経営工学という分野に興味がありました。しかし前期日程で受けた経営工学の学べる大学は不合格で、後期は工学系で、地域と連携した授業やプログラムがある富山大学工学部機械工学コースを受験し、進学することにしました。

## 「選択を正解に」を合言葉に行動

当初は、第1希望の大学ではないことで落ち込んでいました。先輩とのつながりを通じて大学1年次に「中高生向けキャリア事業のコンテンツ作り」のリーダーとして長期インターンシップに参加しました。「選択を正解に」というキーワードをよく使う社長のもとで、自分の意志を持って活動することの大切さを学びました。このインターン参加をきっかけに、「大学生活でたくさんものを得て、富大に進学したことを正解だと思えるように行動しよう」と心を決めました。

## 行動を起こしたい学生が集まるコミュニティ

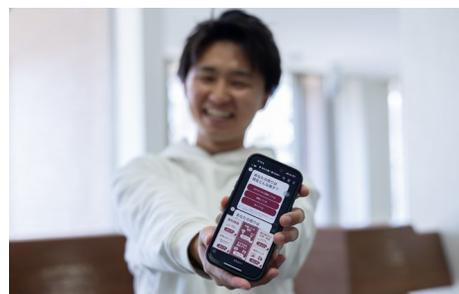
興味があれば積極的に行動していくようになりました。その中で、自分と同じように行動する学生や社会人と出会う機会が増えました。意欲的な学生が集うコミュニティスペースにも参加するようになりました。

## 「OMOWARAプロジェクト」 学生リーダーとして

大学周辺のコミュニティで「SNSを通じて何か人の役に立つことがしたい」と話していました。富山市八尾の「おわら風の盆」の観光客の混雑解消の課題解決の話を持ち掛けてもらいました。お話をいただいた2024年8月に「OMOWARAプロジェクト」を始め、9月の「おわら風の盆」開催までの1か月でアプリ開発に取り組みました。やってみようという思いと、一緒にプロジェクトを進める大人や地域の人を巻き込み、混雑解消アプリの運用を成し遂げることが出来ました。この経験で、改めて大人や地域の人を巻き込んだ活動が好きだと実感しました。

## 「おわら風の盆」を持続可能にするために

昨年はかなりタイトなスケジュールでした。その経験を活かし、2025年は1年かけてプロジェクトを進めています。おわらの黒字化、後継者の育成という課題に取り組んでいます。おわらで利益を出すこと、知名度を上げること、来場者の満足度を上げることで、おわらがサステナブルになるよう働き掛けようと計画しています。



## お世話になった高校の先生へ

地域活性化プロジェクトを開催していただき、ありがとうございました。プロジェクトを推進させることの楽しさを学び、現在の活動に繋がっています。